

対話による創造が可能なコミュニティへ

～システム委員会のもう一つの挑戦～

富山大学学術情報部図書館利用支援課長

野中雄司

nonaka@adm.u-toyama.ac.jp

24 Slides

令和4年度国立大学図書館協会シンポジウム

令和4年9月28日（水）

@東京大学総合図書館大会議室／オンライン

本日の
シナリオ

1

自己紹介

2

システム委員会の活動

3

もう一つの挑戦

4

今後に向けて

1

自己紹介

北海道大学
附属図書館

13年

係員10年
係長3年

富山大学
附属図書館

2年目

課長2年目



東京大学
附属図書館

4年

係長4年

室蘭工業大学
附属図書館

3年

係長3年



2

システム委員会の活動 ～令和3年度から1年半の活動～

こちらも参照 JANULWebサイト→総会→会員限定資料
第69回総会 研究集会(令和4年6月23日) 話題提供：協会会員館のさまざまな取り組み
阿藪品治夫 (茨城大学研究・社会連携部学術情報課長／システム委員会)
「会員館向けアンケート調査のご報告」

総合目録データベースをはじめとする、
他機関と連携した学術情報システムを高度化することにより、
知の総体を対象として、

必要な情報が効率的・網羅的・安定的・
継続的に発見できる環境を
実現するための企画立案等

を行う。

引き続き
学術情報システムの
高度化を検討することが
本流かな。

前委員会が有益な
報告書を作成して
いるよね。

ただ、加えて
実際に実施していく
ことが重要では？

前線の
各機関が
考えるべき

でも一人じゃ...
力の結集
が必要

対話の
「場」が
足りない？

対話の機会を増やそう！まずはみんなの考えを聞いてみよう！

事例の
共有

まずは
「悩みや疑問」
の収集

まずは
「描きたい未来」
の収集

令和3年度

事例調査・意識調査班



ワークフロー班

事例の共有

悩みや疑問、描きたい未来の収集



学術情報の高度化を検討

システム委員会
ミッション

皆さんの身近な
システム改善事例
（ちょっとした工夫や
新しい取組み）について、
差し支えなければ
他の図書館のため
ぜひ共有をお願いします！
（組織での回答）

4. 回答期間

- ・ 令和3年12月6日～令和4年1月31日

5. 回答の利用

・ 調査1（事例共有アンケート調査）

- ・ 調査1、2ともに、委員会の検討材料とする。
- ・ 調査1は、記入内容をシステム委員会がまとめる報告書に利用するほか、事例共有を目的とするワークショップ等のイベント、ウェブサイト、動画等に利用する。大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議これからの学術情報システム構築委員会及びその他の関連する外部組織から依頼があれば回答内容を共有する。（システムに関する意識調査）委員会の検討材料とする。
- ・ 個人を特定できない形でシステム委員会がまとめる報告書に利用する。や他組織から依頼があっても、回答者の承諾なしに回答内容をシステム委員会以外に見せることはありません。

先

館協会システム委員会事務局（名古屋大学附属図書館情報管理課）

tos-kikaku@nul.nagoya-u.ac.jp 電話 052-789-3665（鈴木）, 3672（小嶋）

アンケート企画者紹介



野中雄司（富山大学）



阿孫品治夫（愛城大学）



高橋未夏（東京大学）



秋誠一（名古屋大学）



鈴木雅子（名古屋大学）

国立大学図書館協会の
コミュニティの力で、
会員館に所属するスタッフが
もっている悩みや疑問について
少しでも実際に
解決していくことを目的に、
広くシステムに関する意識調査
（困っていること、知りたいこと、
やりたいこと、
描きたい未来等）を
させていただきます。
（個人での回答）

調査2

別紙2

コミュニティの力で悩みを解決しよう！

会員館に所属するスタッフ向け
問題解決のためのアンケートのお願い国立大学図書館協会 システム委員会
令和3年12月6日

調査1 51事例
調査2 38名の方から

調査は
続ける前提で
検討中

【調査結果の詳細】

- 調査1の事例の公開

「令和3年度図書館のシステムに係る事例の共有に向けたアンケート」各会員館における取り組み事例集

- 調査1と調査2の結果の詳細

第69回総会 研究集会(令和4年6月23日)

話題提供：協会会員館のさまざまな取り組み

阿蘇品治夫（茨城大学研究・社会連携部学術情報課長／システム委員会）

「会員館向けアンケート調査のご報告」

JANULWebサイト（会員用ページ）から

令和4年度

事例調査・意識調査班
システム事例共有WG



ワークフロー班
資料・情報アクセス検討WG

協働と共有

課題解決や対話の「場」を
企画・実施

未来の図書館サービス、
ワークフローについて
身近な課題から検討

相澤(岩手大)
高瀬(愛知教育大)
佐藤(徳島大)

システム委員会
ミッション

磯本(千葉大)
杉山(静岡大)
浅見(名古屋大)
夏目(滋賀大)
疋田(佐賀大)

テーマにあった多様な対話の「場」を企画

事例の共有

座談会

先行館
インタビュー

ミニ勉強会

関係者
インタビュー

ミニ
ワークショップ

調査1と調査2の回答からピックアップして企画

これからの
ILLシステムが
どうあるべきか
座談会・勉強会を
やってみよう！

国内図書館システムは
電子リソース管理に
どう対応していく予定なの？
ベンダーにインタビューして
共有できないかな？

先行館がどのように
課題解決して実現させたか
インタビューして
共有できないかな？

新NACISIS-CATって
実際どうなるの？
中の人に聞いてみて
共有できないかな？

分担して企画

各委員・メンバーの興味も大事に（自分が知りたい！）

ダッシュボード プロジェクト 最近見た項目 フィルタ + 🔍 ... 👁️ 🔔 ? 👤

事例調査・意識調査班/システム事例共有WG (SHARE)

検索条件 シンプルな検索 高度な検索

全 15 件中 1 件 ~ 15 件を表示 1

種別	キー	件名	担当者	状態	カテゴリ	優先度	発生バージョン
タスク	SHARE-2	調査2対応【2021-1,2】ILLの決裁方法について【担当】★野中・高瀬	高瀬（愛教大）	企画実施中	個別企画	→	
タスク	SHARE-3	調査2対応【2021-3,4】蔵書検索上にもっと本を探す楽しさを追加できないか【担当】★野中・佐藤	野中雄司	企画実施中	個別企画	→	
タスク	SHARE-5	調査2対応【2021-8】ILLの今後の在り方【担当】★野中・高瀬	野中雄司	処理中	個別企画	→	
タスク	SHARE-4	調査2対応【2021-5,6,7】動画作成やオンラインイベントのノウハウ【担当】★阿蘇品・高瀬・相澤	阿蘇品(茨大)	企画実施中	個別企画	→	
タスク	SHARE-15	調査1追加共有：RPAを活用した所蔵データのメンテナンス【担当】★佐藤・阿蘇品・相澤	佐藤 孝之	企画実施中	個別企画	→	
タスク	SHARE-16	調査1追加共有：チャットボットの導入【担当】★相澤・阿蘇品・佐藤	相澤裕介	企画実施中	個別企画	→	

Backlogを導入しガシガシ企画中！

※ Backlog=プロジェクト管理ツールの一種

3

もう一つの挑戦

そもそも国大図協とは？

国大図協は
館同士の世界で
現場スタッフから
遠くないか？

個々の能力は高い！
国大図協
コミュニティは
もっとやれるんじゃないか？

未来を考えるには
もっと対話が
必要なんじゃないか？

もっと現場スタッフの
横の繋がりを
作れないか？

総合目録データベースをはじめとする、
他機関と連携した高度化することにより、
知の総体

必要な情報
継続的に発
実現するた

を行う。

実現させるためには
もう一つの
ミッション（挑戦）
が必要

館 → + 人

のコミュニティへ

そのために我々は現場スタッフが館を超えて
もっと対話や情報共有できる「場」を構築する

国大図協はコミュニティとしての意味はあるのか？ 21

現場スタッフのコミュニティとしてほどよいのではないか？

伝統と革新

これまでの蓄積
LibrarianMapのような
新しい試みも

サイズ

図書館・室職員総数(専任)
1523人(*1)

ダンバー数(*2)
知り合い 500人
名前と顔が一致 1500人
ほどよいサイズ？

類似性と親近感

大多数が同じ国立大学と
いう類似性、親近感

図書館や学術情報流通の課題は世界共通だが、ある程度の規模の閉じられた空間で密な対話をしていくことも必要なのではないか

*1学術情報基盤実態調査 / 令和3年度 大学図書館編

*2ロビン・ダンバー著; 吉嶺英美訳. なぜ私たちは友だちをつくるのか: 進化心理学から考える人類にとって一番重要な関係. 青土社, 2021, p.83

4

今後に向けて

対話の「場」を
企画・実施

情報共有の「場」の
提案・構築

対話や情報共有の「場」として活用してほしい！
活用してもらえるような活動をしていきたい！

創造は対話から
生まれると信じている

そのような環境を作るのが
管理職となった
自分の責任と役割の一つ
ではないか